第４章　小さな世界都市を実現するための主要手段

１　自然との共生が徹底されている

自然の脅威も恵みも、同じ自然がもたらすものです。私たちは、自然を畏れ、敬い、感謝し、理解しながら、自然に抱かれて生きるまちを創り上げていく必要があります。

⑴　災害に備え、地域の防災力が高まっている

我が国は災害列島と呼ばれ、毎年のように各地で大災害が起きています。そのことを認識し、自然災害に対する危機意識を高めなければなりません。

私たちは、平成 16 年（2004 年）の台風 23 号をはじめとする過去の災害の教訓を踏まえ、「みんなの力で命と暮らしを守る」ことを理念に、防災・減災対策に取り組んでいます。災害の規模が大きくなるほど、自主防災組織など地域の人々の協力（共助）が大きな力を発揮します。そのためには、日頃から地域の自主防災活動や近所同士の関わり合いが大切です。

災害は必ず起きることをリアルに想定し、減災の考え方に立ち、自助、共助、公助により、まち全体の災害対応能力を高めていきます。

▲下陰区による避難所開設訓練（豊岡北中学校）

【関連する取組み例】

市民の防災意識の高揚を図るため、「市民総参加訓練・震災総合防災訓練」を実施しています。平成 28 年度（2016 年度）の訓練は、市民約 30,300 人、市内全域の約９割の区(町内会)の参加がありました。

⑵　自然と折り合う暮らしがまちに根付いている

私たちは、一度は日本の野外で絶滅したコウノトリをシンボルに、「コウノトリも住める豊かな環境をつくる」取組みを進めてきました。

コウノトリ育む農法や湿地再生事業などの取組みにより、コウノトリが飛び交う風景を取り戻すことができました。その取組みは、世界でも稀な成功例として評価を受けています。しかし、豊かな自然環境を取り戻すには、なお長い時間とエネルギーが必要です。

環境問題は、単に社会や経済の構造だけではなく、人々のライフスタイルにも起因しています。

私たちは、自然との触れ合いを楽しみながら、本市の自然環境に適合したまちづくりとライフスタイルを確立する取組みをさらに積極的に進めていきます。

▲コウノトリとともに暮らす

【関連する取組み例】

「豊岡型ライフスタイル（自然に抱かれた豊岡の新しい暮らし方）」の確立と普及に向けて、小学校への出前授業、地元の食材を使った地域イベント、雪を利用して食材を保存する雪室（ゆきむろ）の実証実験などに取り組んでいます。

⑶　環境と経済の共鳴が広がっている

私たちは、環境を良くする取組みによって経済が活性化し、経済の活性化が誘因となって環境を良くする取組みがさらに広がる、環境と経済が共鳴する関係を環境経済と名付け、その実践を広げる「環境経済戦略」に取り組んできました。

この戦略は、①環境を良くする取組み自体の持続可能性を確保し、②地域の経済的自立を図り、③自らの誇りにつなげることを狙いとしています。

世界各地で環境保全活動が経済的利益と衝突し、ときに挫折する中で、本市の環境経済戦略の取組みは、世界のモデルとなる可能性を持っています。

今後も、市民、地域、企業、団体、行政のさまざまな主体がお互いに知恵を出し合い、協働しながら、この取組みを強力に推進し、豊かな環境の保全と経済活性化の両立に挑戦していきます。

▲国内最大の消費地「沖縄県」の店舗に並ぶコウノトリ育むお米

【関連する取組み例】

「環境経済事業認定」制度に登録された企業は、最先端技術によって太陽電池を作り、地球温暖化防止に貢献するなど、さまざまな分野で環境への貢献事業を進めています。

平成 27 年度（2015 年度）の認定事業は 55 事業で、その売上額は約 52 億円となっています。